

校長室だより

最終号

3月号③

春は、出会いと別れの季節です。3月17日に本校からも19名が巣立っていきました。温かい雰囲気の中、凍とした緊張感のあるとても思い出に残る卒業式となりました。卒業生のすばらしい態度に、わたしは熱いものがこみあげてきました。卒業式に参加した4・5年生の態度もすばしかったです。

すばらしい卒業式でした

真剣に卒業証書を受け取り、自分の思いや目標、感謝の気持ちを壇上で堂々と発表する卒業生の態度はすばしかったです。卒業生に一番近いところで表情をみることができたわたしは、卒業生の成長を感じながら、少し圧倒されそうになりました。コロナ禍の中、例年とはちがう形の卒業式となりましたが、卒業生にとってもわたしたち教職員にとっても、とても意義のあるよい節目の日となりました。式後の歓送も、西麻植小学校全児童・全職員で実施できてよかったです。



8年後の20才になった自分に

卒業式前日、西麻植小学校卒業生恒例のタイムカプセルを正門の北側に埋めました。卒業生は、20才になった自分にどんなメッセージを送ったのでしょうか。メッセージを書く時、8年後の自分をイメージしたと思います。「将来のなりたい自分をイメージして、その実現のために今どんなことをしたらいいのかを考える」これはとても大切なことです。わたしも8年後とは言えませんが、1年後のビジョンをしっかりとって、がんばっていきたいと思っています。



2年間でしたが、大変お世話になりました

早いもので、わたしが新米校長として、緊張と不安をいだきながら西麻植小学校で第一歩を踏み出してから2年がたちました。この2年間、保護者のみなさん、地域のみなさんには、たくさんのことを教えていただき、多大なご支援とご協力をいただいたことに、感謝いたします。微力であるわたしは、みなさんに支えられながら学校経営をしてきましたが、日々気づかされ勉強することばかりで、十分なことができなかつたかもしれません。お詫びいたします。この2年間、「西麻植は地域が一体となって子どもを見守り育てている」ということを強く感じました。なんとも言えないぬくもりがあり、その芯にある熱い思いを感じました。わたし自身、校長として人として大きく成長させていただいたと思っています。いつまでも忘れることのできない地域・学校です。この西麻植での学びを赴任する学校でも生かしてがんばりたいと思います。本当にお世話になりました。ありがとうございました。

濱田 真司